

実習タイトル	公開臨湖実習 5 (茨城大学・信州大学合同臨湖実習) 「さまざまな湖沼で環境計測・生物調査をしてみよう」【リモート形式】		
<p><実習内容></p> <p>現在の日本の湖沼では、人間活動の結果としての水質悪化、外来種の侵入、有毒化学物質、ネオニコチノイド系農薬、マイクロプラスチック等の流入とそれらの残留物質、福島第一原発事故を原因とする放射性物質の蓄積など、実に多くの水環境問題に直面している。これらの環境問題が生物群集におよぼす影響評価を行うためには、湖沼の環境要因や生物群集に関するデータの蓄積が必要不可欠である。では実際にこのようなデータはどのようにして取られているのだろうか？本実習では、特殊な分析機器を用いた環境計測や生物調査を行い、分析法や得られたデータの解析法を学ぶ。また、日本第 2 位の面積を誇る茨城県の霞ヶ浦(過栄養湖)、長野県の諏訪湖(富栄養湖)、木崎湖(中栄養湖)など、様々な栄養状態の湖の水試料を実際に測定し、比較湖沼学的観点から日本の湖の現状を理解する。</p> <p><実習項目(本実習は Zoom によるリモート形式で実施 ※一部対面【茨城大】での参加も可能)></p> <p>8月24日(リモート)：日本の湖沼における今日の水環境問題に関する最新のトピックス</p> <p>8月25日(リモート)：霞ヶ浦・諏訪湖・木崎湖における水質測定・生物調査の様子</p> <p>8月26日(リモート)：上記湖水の水質分析と生物観察(分光光度計によるクロロフィル a 濃度測定、パックテストによる各種窒素・リン濃度の測定【自宅に試料を郵送するので各自で分析】、ICP 発光分光分析装置を用いた湖水中の各種金属分析、プランクトン・底生動物の観察)</p> <p>8月27日(リモートと対面のハイブリット)：ゲルマニウム半導体検出器を用いた底泥・魚類等の放射性セシウム濃度測定、霞ヶ浦における物理環境と実地調査</p> <p>8月28日(リモート)：総合討論</p>			
実習内容キーワード	霞ヶ浦、諏訪湖、木崎湖、比較湖沼学、水質分析、野外調査		
担当教員氏名・所属・役職名	宮原裕一(教授)・笠原里恵(助教)・岩木真穂(特任助教) 信州大学 理学部 中里亮治(准教授)・増永英治(講師)・金子誠也(助教) 茨城大学地球・地域環境共創機構(GLEC)		
協力教員氏名・所属・役職名	荻部甚一(講師) 近畿大学 工学部		
対象学生・学年	学部生 (院生も可)	開講期間	2026年8月24日(月)～ 8月28日(金)
開講大学・施設名	茨城大学 GLEC・水圏環境フィールドステーション 信州大学 理学部附属湖沼高地教育研究センター 諏訪臨湖実験所		
施設の住所	〒311-2402 茨城県潮来市大生 1375		
電話	0299-66-6886	F a x	0299-67-5175
e-mail	suiken@ml.ibaraki.ac.jp	Web Site	http://www.cwes.ibaraki.ac.jp/
交通案内	Zoom によるリモート形式で実施(8月27日のみ茨城大にて対面での参加も可能)。		
費用	オンライン実習のため一切の費用負担なし。一部対面での参加を希望する者は食費で約1,000円前後。宿泊が必要な場合は事前に別途相談		
授業科目名	湖沼環境計測実習		
単位数	1単位 (院生の場合、所属大学院での単位認定不可)	定員数	30名
授業料の徴収について	国立・公立・私立大学を問わず不徴収。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	本実習は信州大学との合同臨湖実習であり、信州大学の臨湖実習②「比較湖沼学実習」と同じ内容です。今年度の申し込みは茨城大学で受け付けます。締め切り：6月30日(火)		
選抜結果連絡法	所属大学学務へ郵送、および申し込み学生へ E-mail で通知。		